

新道（清輝小）遺跡説明会資料

岡山市教育委員会

新道（清輝小）遺跡は、プールの新築に伴い今年の3月から約1,000m²の面積を発掘調査してきました。調査の結果、江戸時代の武家屋敷、平安時代の終わりから鎌倉時代にかけての集落、奈良時代の火葬施設が明らかになりました。以下、時代ごとにおおよその内容を説明します。

1 江戸時代の武家屋敷

このあたりは江戸時代には武家屋敷でしたが、昭和20年の岡山大空襲により当時の屋敷割りや道路はほとんど失われてしまっています。今回の調査で、当時の道路と「沢慶明」さんの家に用いられたと思われる「沢」の字を陽刻した軒丸瓦が出土したことから、調査区が城下町のどこに位置するのかを知る具体的な手がかりを得ることができました。

2 平安時代末から鎌倉時代（約800年前）

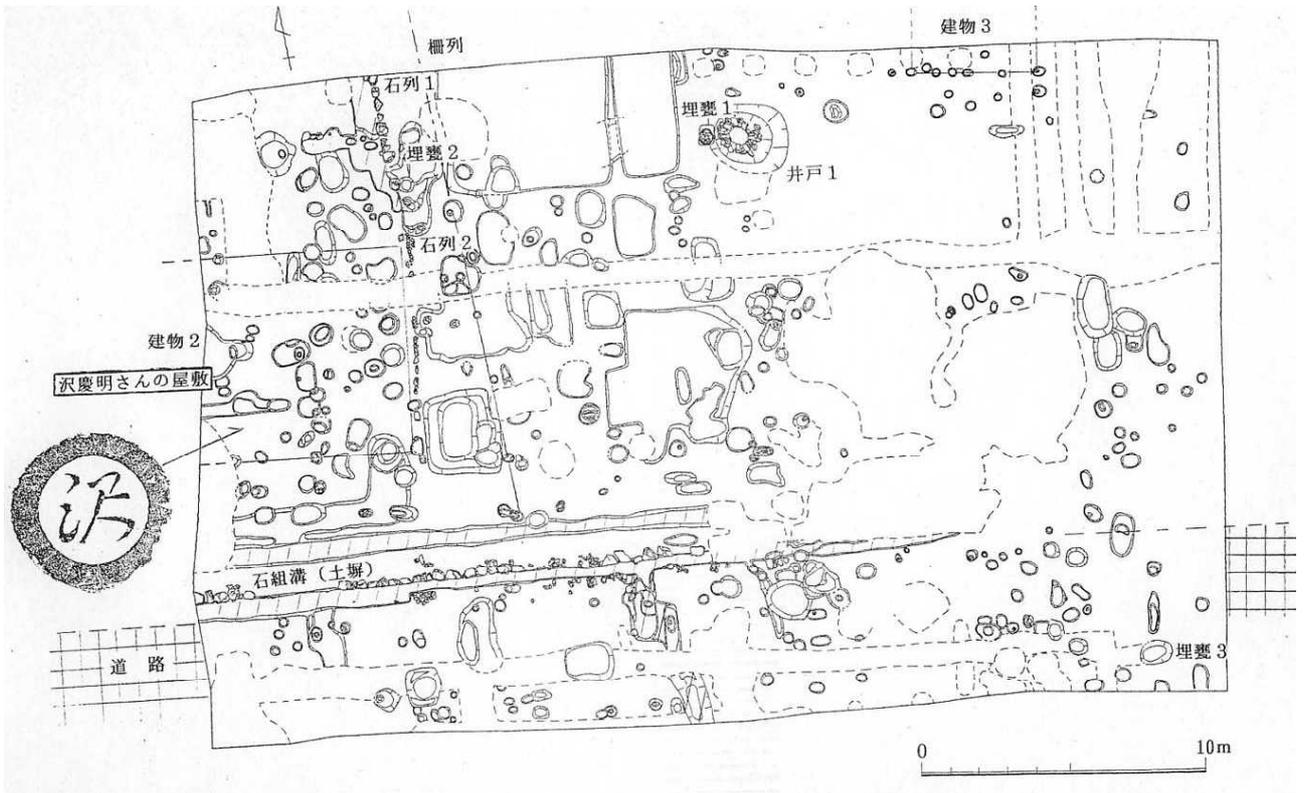
建物の柱穴と井戸などが見つかりました。井戸には井戸杵があり、その中から多くの土器とともに木簡が出土しました。木簡には1.「御庄久延弁」と、2.「大〃寸魚下」と書かれていました。このあたりは中央の最高権力者である藤原氏の荘園である「鹿田庄」があった場所とされており、この荘園に関係する木簡と思われます。特に1については当時の税金に関することが書かれており、こういったものは荘園に中心となる施設（荘家）と直接関係するものであり、付近にその存在が推測されます。

3 奈良時代（約1200年前）

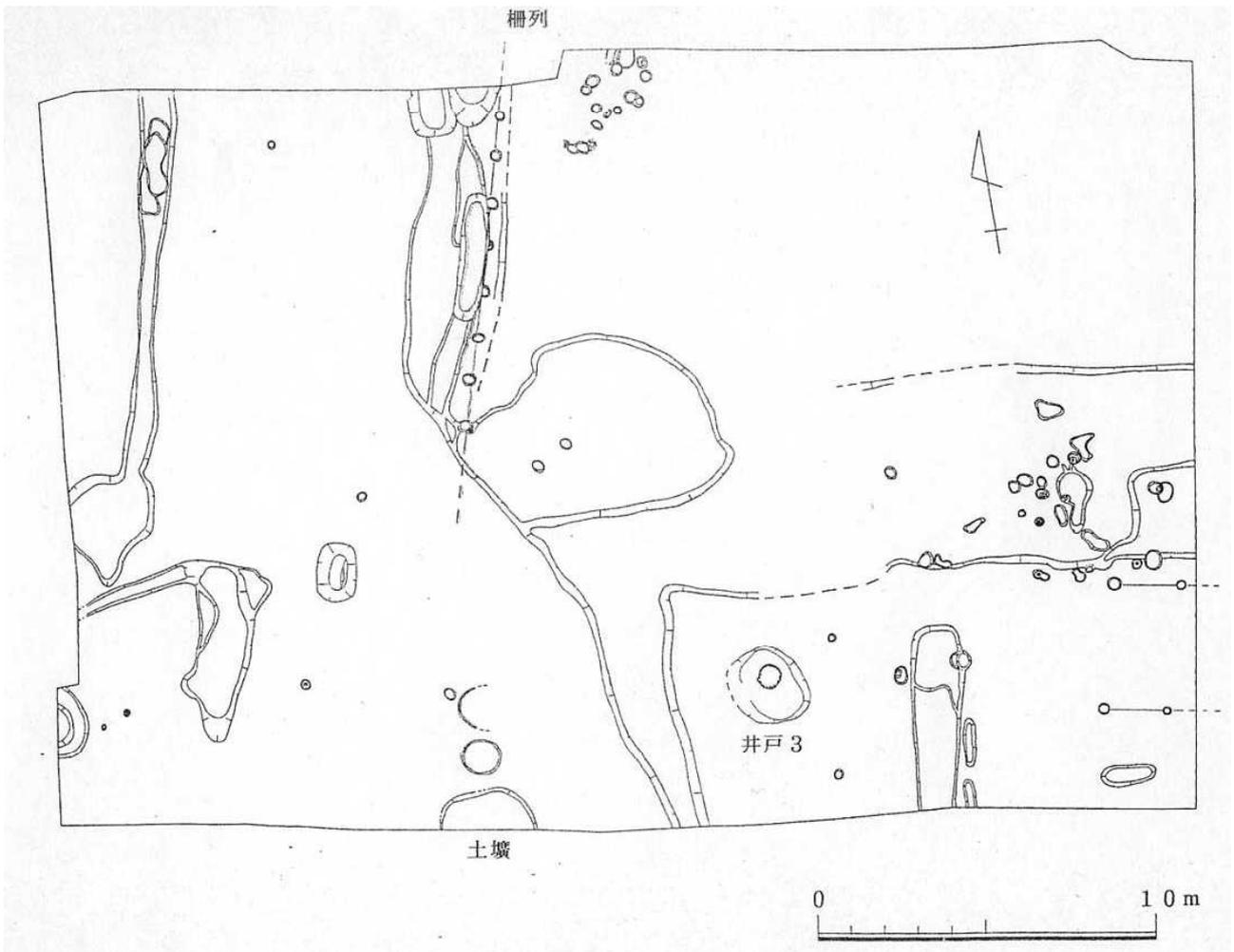
火葬施設、土壙、河道が見つかりました。火葬施設は、長さ約2mほどの長方形の穴の周囲に粘土をはり、材木を井げた状に組んでありました。そして土器を割って入れてありました。同じような施設は、大阪府や福岡県でも見つかっており、同じ火葬の方法が広い範囲で行われていたことがうかがわれます。ただこのような火葬は、一部の人だけに用いられたものと考えられており、この火葬施設は一般庶民というより、当時の豪族、もしくは官人（役人）に対しておこなわれたものと推測されます。



遺跡位置図



18 ~ 19 世紀遺構面 (武家屋敷遺構)

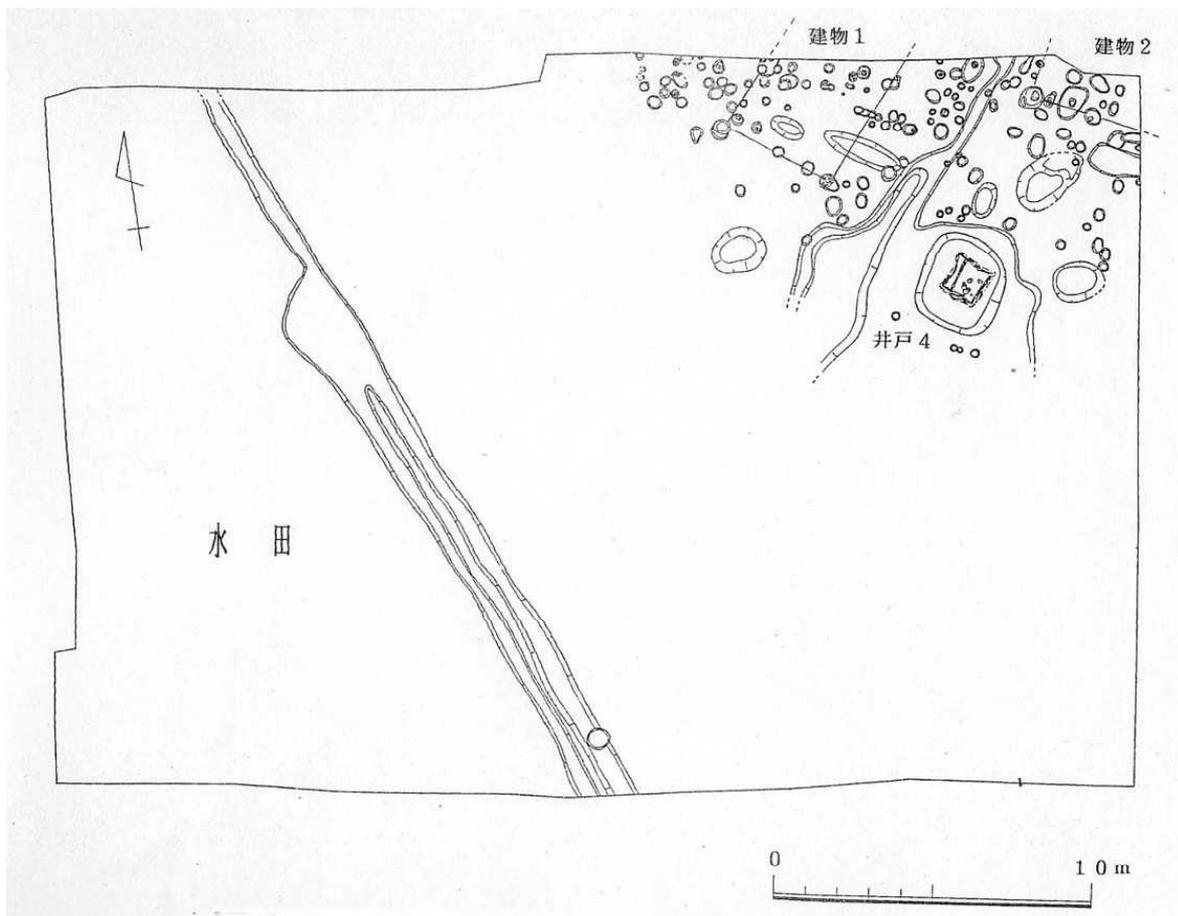


17 ~ 18 世紀遺構面 (近世下層)

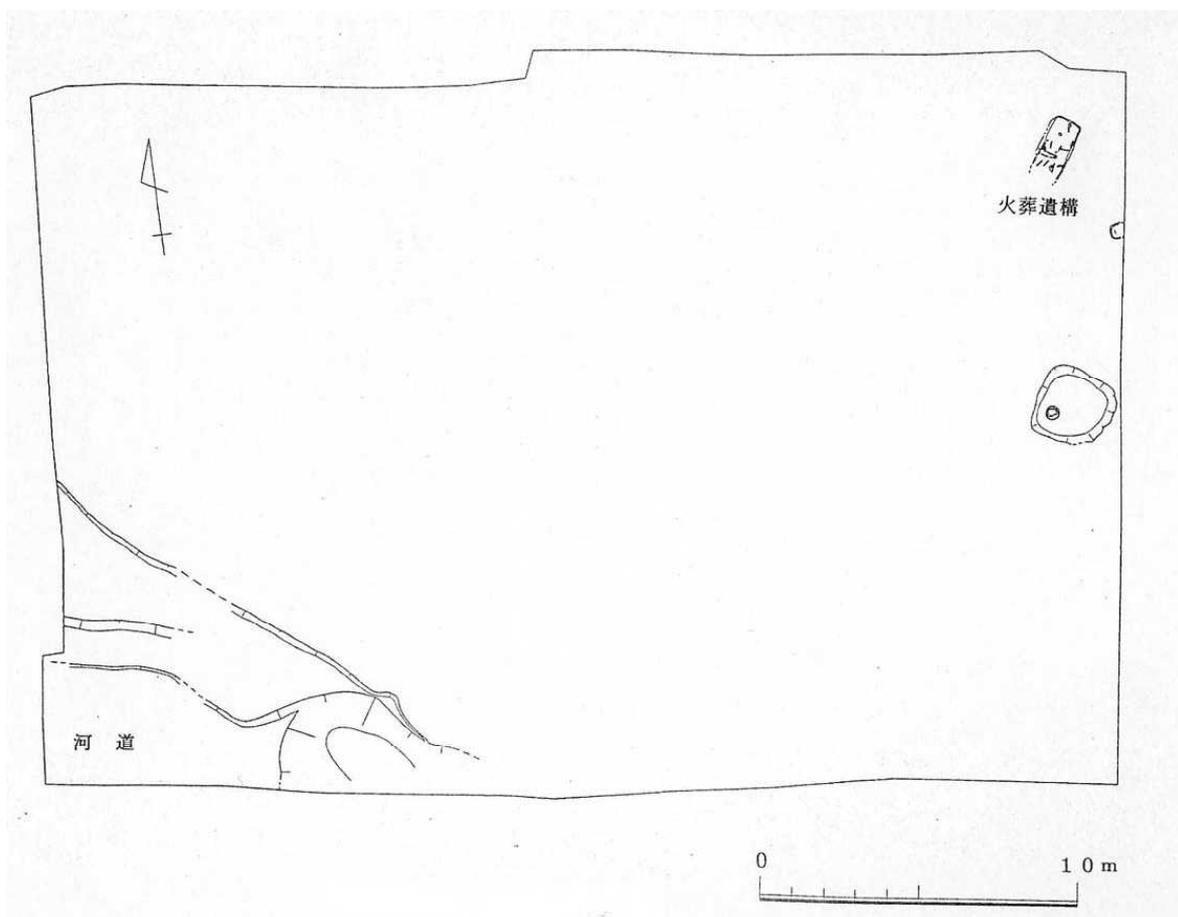


- 学校敷地 (推定)
- 調査区 (推定)

江戸時代終わり頃の城下町 (19世紀)



平安時代末～鎌倉時代前半の遺構面



奈良時代遺構面



備前国上道郡荒野荘領地図